異世代交流の難しさ

活動先名：特定非営利活動法人りんりん

１．活動先紹介

ｉ）活動理念

一人暮らしの高齢者男性が退院後、生活を支えてくれる人を求めていることを知った女性達が支援を始めたのがきっかけではじまり、「たすけあいの心」を大切に、「たすけあう心ですべての人が健康で安心して暮らせるいいまちづくり」を目指して、地域に貢献するとともに信頼される市民活動を展開している。

ⅱ）事業内容

・たすけあい事業

在宅福祉サービス、保育サービス

・地域ふれあい事業

絵手紙教室、さをり織り、生き活きサロン、木曜サロン市、小物づくり

・介護保険事業

居宅介護支援事業、訪問介護事業、予防訪問介護事業、
通所介護事業、予防通所介護事業

・障がい福祉サービス事業

居宅介護、移動支援

・市町村委託事業

産後期支援ホームヘルパー派遣、放課後児童健全育成

２．当初の活動目的・目標

現在の日本は核家族化が進んでおり、子どもと高齢者がふれあう機会が昔と比べて少なくなってきていると感じる。そこで、放課後児童健全育成事業と通所介護事業を同じ敷地内で行っているりんりんにおいて、子どもと高齢者が一緒になって何かをすることで、ふれあう機会をつくり、これからも子どもと高齢者がふれあっていけるように私たちがきっかけをつくりたいと考えた。

３．活動内容

・活動期間：２００９年８月５日～７日、１０～１１日
・活動場所：デイサービスやなべ、りんごクラブ

	高齢者	子ども
１日目	絵を描いたり折り紙を貼るなどして、縁日でのプレゼント交換用のうちわを作った。	絵や数字を書くなどして、縁日でのプレゼント交換用のカレンダーを作った。
２日目	デイサービスがお休みだったため、生き活きサロンの利用者さんと一緒に昼食を食べた。	社会見学へ出かけていたため、帰ってきてから子どもたちと一緒に遊んだ。
３日目	魚釣り用の魚をぬり絵にして一緒に色を塗るなどして作った。	魚釣り用の魚をぬり絵にして一緒に色を塗るなどして作った。
４日目	利用者さんと三味線を鑑賞しながら歌を歌うなどした。	紙コップに絵をかくなど縁日の射的の的を作った。
５日目（縁日）	子どもたちとデイサービスの利用者さんが一緒に楽しめるものとして、魚釣り、射的、わなげのコーナーを用意し、楽しんでいただいた。また、最後にプレゼントの交換をした。	

４．活動における問題点・課題

ｉ）準備・段取り不足

最終日、デイサービスの利用者の方と学童保育の子どもたちが一緒に楽しめるように、魚釣り、射的、わなげを企画した。しかし、スペースの確保に手間取ったり、子どもばかりが魚釣りや射的に集中してしまい、利用者の方が参加することがなかなかできなかった。また利用者の方の中には静かな環境を好んでいる人もいて、子どもたちの大きな声に耐えられない人や、疲れてきてしまう人も出てきた。

課題としては、事前に机や椅子のことにまで配置を考えておかなければいけなかった。例えば車椅子や杖をついた人がいるならば、利用者の方がいる位置から魚釣りや射的までの通路を広めにとっておくといった対処ができていたかもしれない。そのために、企画を考える際、事前訪問をするなど企画に参加してもらう利用者の方の状態や施設の様子などを知っておく必要があった。また時間をしっかり決めていなかったため、時間を決めて企画にメリハリをつけるべきだった。

ⅱ）声かけ

イベントに参加したくないと思っている方に対して、声かけが出来ていなかったので、その利用者の方が孤立してしまった。そのため、そういった方に対しては話をかけるなりの配慮が必要だったと思う。またその人がどうしたいのかを聞くべきだった。

５．活動を通して学んだこと

ⅰ）コミュニケーションの取り方

活動を始めたばかりの頃は、デイサービスの利用者の方に対して自分から話しかけることができず、コミュニケーションを取ることが難しかった。他にも、利用者の方同士で話されていて、自分もその輪の中に入ることができず、全く喋ることができなかった。しかし「今日は暑いですね」「毎週、何曜日に来られているのですか」などと話しかけると、自分の言葉に応えてくれた。利用者の方から話しかけられることを待っているのではなく、自分から話しかけなければいけないと感じた。そして自分から話すきっかけを作るためには、日頃から新聞を読む、ニュースを見る、本を読むなど社会のことを知り、話題をたくさん持てるようにしようと考えるようになった。

学童では、子どもたちから積極的に話しかけてきてくれて、すぐになじむことができた。しかし、一度に何人にも遊びに誘われたりして戸惑った。また喧嘩がおきたとき、仲介の仕方がわからなかった。そこで、職員さんの子どもへの接し方を見て、平等に接することが大切だと思った。

ⅱ）利用者ではなくお客様として考える

りんりんではデイサービスに来られる利用者の方をとても尊重して接していた。利用者の方が来られるとお茶を出してゆっくりしてもらい、話すときは目線の高さを同じにして話すように心がける。決して利用者の方を上から目線で見たり、接したりするのではなく、利用者の方を敬い、人生の先輩として接することを学んだ。

ⅲ）利用者目線

この活動を通して自分の勝手な考え方を気付けた事が一番であった。活動を始めたばかりの頃は、自分達が考えた活動プランを利用者の方全員がやってくださるだろうという意識を持っていた。しかし、活動の中で自分の考えは利用者目線ではなく、自己中心的な考えであったことに気付き、この機会がとても大切なものになった。

ⅳ）活動の目的・目標の達成

私たちの活動の目的は子どもと高齢者の異世代交流であった。そこで魚釣り、射的、わなげ、プレゼント交換を企画した。しかし、全ての人に楽しんでもらえると思っていたが、デイサービスの利用者の中には静かな環境を好む人がおり、全員に楽しんでもらえることができなかったり、子どもたちだけで遊んでいることが多く、高齢者と子どもの交流は難しいと感じた。そこで、ただ企画を考えるだけでなく、問題点もふまえて考えることが大切だとわかった。また、このことからデイサービスはレクリエーションなどをする役割だけでなく、ゆっくりと過ごしてもらう環境を作ることも必要であることを学んだ。

６．活動先への提案

ｉ）居場所づくり

生き活きサロンはデイサービスに来られている人ばかりではなく、近所の方など様々な人が来られる。私が参加したときは、参加されている人の中に 4 人ほどのグループで来られており、4 人が同じテーブルに座って食事をされていた。仲良しの 4 人が同じテーブルに座って食事をすることも良いことだが、せっかく生き活きサロンに来たのだから、他の参加されている方や、顔見知りでない方と食事をしながら話してみるようにするのはどうだろうか。他の人と話すことで、共通の趣味や特技などから新しいお友達ができるかもしれないし、新たな自分が発見できるかもしれない。

ⅱ）会員制について

りんりんは地域ふれあい事業に参加する際に会員制をとっているものが多いが、会員だけでは地域の人が参加しづらいと思う。そのため会員制をあまりとらない形にした方が活動の参加率が上がると考える。生きがいづくり、仲間づくり、居場所づくりを目的に地域ふれあい事業を行っているので、会員制の有無をなくすことで、誰でも気軽に参加できる事業になるのではないだろうか。

７．次年度活動をする学生へ

自分たちがどのような活動をするか決める際、準備不足にならないよう事前学習をしっかりすることが大切である。活動先について調べるだけではなく、実際に訪問して施設の様子や利用者の状態を知っておくべきだと思う。

またサービスラーニングはボランティアと違いふりかえりを重視する。自分たちの活動に目的や目標を持って活動することは、活動をする上でとても重要なことだと考える。自分たちが企画したことは誰にしてもらうのか、対象者を考え、その対象者に合った企画をすれば喜んでもらえると思う。

りんりんはとても大きなＮＰＯであり、さまざまな事業を行っていて、ＮＰＯの運営について学ぶことも多いと思う。また子どもから高齢者までふれあうことができるので、子どもとの接し方、高齢者との接し方を比較しながら学べる。